

評価者	環境部長	石井 康則
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	海浜の環境保全
目標とすべきま ちの姿	関係機関等との連携により、海浜が適切に保全されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	19.6%	平成27年度	17.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方		お金の使い方		<p><妥当性の分析></p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は約51%と、選択市の中では最も多くなっている。次に多いのはお金が「足りない」、効果は「不十分」の14%、次はお金は「ちょうどよい」、効果は「不十分」の約3%であり、市民意識では、海浜の環境保全に対しお金を使い方、仕事の効果ともちょうどよいという印象が強い状況にあると捉えることができる。</p>	
仕事の 効果	必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい		足りない
	ちょうどよい	0.2%	1.0%		0.0%
	効果不十分	1.7%	51.0%		1.6%
平成26年度	3.1%	4.0%	12.3%		
お金の使い方		お金の使い方			
仕事の 効果	必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
	ちょうどよい	0.7%	1.7%	0.1%	
	効果不十分	1.7%	51.4%	1.6%	
平成27年度	2.3%	2.9%	14.0%		

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	22.1%	51.7%	1.4%	24.7%	100.0%
平成27年度	24.9%	49.5%	1.9%	23.7%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

市民等が安全で快適に過ごせる海浜が適切に保全されるよう、関係機関等と連携して海岸美化の取組を進めていく。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
環境-23	海岸清掃事業	15,553	15,610	22,995	23,241	1.0	1.0	b	A
環境-24	海浜保全事業	303	299	7,745	7,930	1.0	1.0	b	C

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】
 公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し、海岸清掃事業を行った。(環境-23)
 ごみの散乱防止の普及啓発としてクリーンナップ鎌倉を行った。(環境-23)
 サーフ90ライフセービング支援業務を行った。(環境-24)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し、海岸清掃事業を行うことにより、海岸に打ち上げられたごみや観光客が出した海岸のごみの清掃回収業務を行い、きれいな海浜の保全に努めた。また、ごみの散乱防止の普及啓発として、クリーンナップ鎌倉を実施して、美化意識の向上に努めた。

今後も、継続して事業を行い、きれいな海浜の保全に努めるため、効率的な運用を進めていく。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

散乱ごみのない良好な海浜を保つためにも、定期的な清掃を継続して実施していく。海浜保全事業についても、活動団体及び県や3市と広域連携により実施していく。

4 平成28年度の目標

引き続き、市民等が安全で快適に過ごせる海浜が適切に保全されるよう、関係機関等と連携して海岸美化の取組を進めていく。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	事業名							備考
指標の内容	単位	指標の傾向						備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海浜におけるマナー対策」の強化が求められる。 ・マリンスポーツは観光客の目的の中でも割合が大きい。マナーや安全な利用の啓発を今後も続けて欲しい。 ・東日本大震災後は防災の側面も問われるため、総合的な対応に期待する。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>海浜の保全と安全な活用を図るため、県や関係機関、団体と連携して、利用者のマナー向上等の情報発信を行い、効率的な運用が図られるよう検討、協議していく。</p> <p>近年はマリンスポーツ等への関心は高く、マナーなどの情報の共有に係るニーズは大きいものと考えられるため、今後も県や関係機関、団体と連携して、利用者のマナー向上等の情報発信を行っていく。</p> <p>防災面については、市の防災部署や県、関係機関、団体と連携して、総合的な対応について、協議、検討していく。</p>
--	---	---

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し、海岸清掃事業を行うことにより、海岸に打ち上げられたごみや観光客が出した海岸のごみの清掃回収業務を行い、きれいな海浜の保全に努めている。
- ・ごみの散乱防止の普及啓発としてクリーンナップ鎌倉を行った。
- ・海岸の美化は行政としてよく取り組んでいるとともに、市民、NPO団体、自治町内会、サーファー等で進められた。
- ・海岸清掃事業の結果、海岸のごみは減っているという印象がある。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	3	↘	0	→	5			↗		
効果	○	2	△	0	—	6	⇒		—		

《課題》

- ・市民等が安全で快適に過ごせる海浜が適切に保全されるよう、関係機関等と連携して海岸美化の取組を進めていくことが求められる。
- ・来訪者(市民以外)の「マナー向上対策具体案」に関し、特に、海浜利用者のマナー向上に対する取組が見えない。
- ・日常は美化が保たれているが、イベント後・悪天候後の海岸美化の対策が求められる。
- ・海浜の適切な保全とはどういうことかが分からない。浜辺のクリーンアップ活動は確かに海岸の環境保全ではあるが、美化の推進がその全てではないと思う。「保全」という言葉の持つ意味から、もっと「安全性」をテーマに掲げた事業展開が求められる。
- ・海浜の保全と安全な活用は県の管轄部分でもあるため、市単独での検討に限られる。県や関係機関、団体と連携して、効率的な運用が図られるよう検討が求められる。具体的な関連機関との検討内容がよく分からない。(記述内容のほとんどが、関係機関、団体と連携して、総合的な対応について、協議となっている。)

《提言》

- ・マリンスポーツ事業者や漁業関係者との協業による事業も主になっていただきたい。
- ・海浜のごみが主に市民によるものなのかが疑問である。海岸へ来る人から清掃に要する費用を負担してもらえるような仕組みを構築すべきである。例えば、海岸への観光客から多くの利益を得ている店などは、率先して店管理のごみ箱を設置するなど。
- ・今回の稲村ガ崎の一件を反映し「環境汚染防止事業」とも連携していくべきである。